

北陸スポーツ・体育学会

2023 年度 学会大会 (@金沢市)

報告資料

大会概要 (プログラム、発表題目、受賞者) 40

シンポジウム概要 43

2023年度 北陸スポーツ・体育学会大会

日時：令和5年12月10日（日）

会場：しいのき迎賓館セミナールームB

〈プログラム〉

- 9：30～9：35 開会式
- 9：35～10：23 一般研究発表（口頭発表1） 【発表8分・質疑4分】
- 10：24～11：00 一般研究発表（口頭発表2） 【発表8分・質疑4分】
- 11：05～11：35 一般研究発表（ポスター発表） 【発表3分・自由討論21分】
- 11：35～11：45 優秀研究奨励賞の投票
- 13：00～13：30 公開シンポジウム受付
- 13：30～15：30 公開シンポジウム
- 15：30～15：40 学会賞授与式及び閉会式

【午前の部】

- 9：30～9：35 開会式
- 9：35～10：23 口頭発表1 座長：青木宏樹（福井工業高等専門学校）
- 9：35～9：47 〔演題1〕 杉浦宏季（福井工業大学）
支持基底面積を基準とした有効支持基底面積の割合の検証：男性高齢者
および男子大学生の比較
- 9：47～9：59 〔演題2〕 島倉晴信（金沢星稜大学）ほか
生成AIを活用した大学体育におけるスポーツに対する意識の変容：自己
効力感に着目して
- 9：59～10：11 〔演題3〕 横谷悠斗（富山大学大学院）ほか
体育嫌いを生起させないための対応についての考察
- 10：11～10：23 〔演題4〕 玉腰和典（富山大学）ほか
中学校体育におけるICTの活用方法に関する事例研究
—マット運動におけるJam Boardを使用した試技画像分析に着目して—

10：24～11：00 口頭発表2 座長：杉浦宏季（福井工業大学）

- 10：24～10：36 〔演題5〕 小間陸嗣（金沢大学大学院）ほか
 温熱刺激が骨格筋のミトコンドリア呼吸機能とミトコンドリア内在型
 ミオグロビンに及ぼす影響
- 10：36～10：48 〔演題6〕 日光泰斗（金沢大学）ほか
 異なる筋種から単離したミトコンドリアの呼吸機能とプロファイルの違い
- 10：48～11：00 〔演題7〕 芝口翼（金沢大学）ほか
 骨格筋損傷後の温熱刺激が筋再生能へ及ぼす影響

11：05～11：35 ポスター発表 座長：杉浦宏季（福井工業大学）

- 11：05～11：08 〔演題8〕 青木宏樹（福井工業高等専門学校）ほか
 荷物重量の違いが中高年者のステップ動作時のリズム及び重心動揺に
 及ぼす影響
- 11：08～11：11 〔演題9〕 吉田唯莉（金沢大学）ほか
 未熟練者におけるハードル走の学習において走技術の顕在的、アナロジー
 的教示が及ぼす影響
- 11：11～11：14 〔演題10〕 北林唯心（所属なし）
 高校生女子卓球選手における心理的コンディションとそのサポートに
 ついて
- 11：14～11：35 自由討論
- 11：35～11：45 優秀研究奨励賞の投票

【午後の部】

13：00～13：30 公開シンポジウム受付

13：30～15：30 公開シンポジウム（大学体育連合北陸支部共同企画）

シンポジウムテーマ：「アフターコロナで見直そう こどもの“からだ”と“こころ”の健康」

司会：岩田英樹（金沢大学）

シンポジスト：

小川耕平（富山福祉短期大学幼児教育学科・教授）

「子どもの体力の現状と今後の対策について」

津田龍佑（金沢医科大学人間科学領域・准教授）

「コロナ禍で喪失した身体活動を取り戻す」

村山孝之（金沢大学国際基幹教育院・准教授）

「幼少期の身体や動きが“こころ”をつくる?!」

15:30～15:40 学会賞授与式及び閉会式

○優秀研究奨励賞

1. 題目：「支持基底面積を基準とした有効支持基底面積の割合の検証：男性高齢者および男子大学生の比較」

受賞者：杉浦宏季（福井工業大学）

2. 題目：「骨格筋損傷後の温熱刺激が筋再生能へ及ぼす影響」

受賞者：芝口翼，小間陸嗣，山崎綾夏，日光泰斗，松本龍樹，増田和実（金沢大学）

公開シンポジウム概要報告

「アフターコロナで見直そう こどもの“からだ”と“こころ”の健康」

司会：岩田英樹（金沢大学）

話題提供者：小川耕平（富山福祉短期大学）、村山孝之（金沢大学）、津田龍佑（金沢医科大学）

【企画趣旨】

北陸スポーツ・体育学会では、体力・スポーツ競技力の向上や健康増進をはじめとする地域の人々の QOL 向上など、スポーツ・健康・体育に関するさまざまな課題に日々取り組んでいる。学会の重要なミッションの一つに「研究成果の地域への還元」があり、次代を担う青少年の健康増進や健全な発達を支援すべく、「子どもの“からだ”と“こころ”の健康に資するスポーツ科学研究」を現在推し進めている。

コロナ禍において、世界中の子どもたちが身体活動や他者とのコミュニケーションの機会を失い、コロナ以前とは大きく異なる生活を余儀なくされた。その結果、体力や運動能力の低下に拍車がかかり、ストレスも増大することとなった。そこで、「アフターコロナ」と言われる今だからこそ、もう一度子どもたちの“からだ”や“こころ”の健康について見直す機会を設けるべく、本シンポジウムが企画された。

本シンポジウムでは、スポーツ科学を専門とする三名の研究者が登壇し、第一に子どもたちの“からだ”や“こころ”の現状について紹介した。第二に、運動・スポーツが“からだ”や“こころ”の健康に及ぼす影響について科学的な視点から解説した。そして第三に、学校・地域・家庭で子どもたちの身体活動を支援するための実践例や今後の課題について会場の皆様と共有した。

子どもの体力の現状と今後の対策について

小川耕平（富山福祉短期大学）

本シンポジウムでは、子どもの体力の現状（体力低下）と体力低下の原因、幼少期の運動の必要性、そして幼少期に関わる大人（保護者・保育士・教員・指導者等）の在り方について、これまでの実践をもとに説明した。最終的には日常生活において、運動が当たり前の存在として定着することが、子どもからお年寄りまで全ての世代における体力の向上や健康増進につながる一番の方法であり、その為の最善のアプローチであることを述べた。

幼少期の身体や動きが“こころ”をつくる？！

村山孝之（金沢大学）

本シンポジウムでは、身体や動きが“こころ”に及ぼす影響について、心理学の視点から解説するとともに、子どもの体力・運動能力と認知機能の関係を調べた研究成果についてわかりやすく紹介した。

身体と心は不可分であり、“からだ”は我々が想像する以上に“こころ”に影響を及ぼす。したがって、体力や運動能力は単にスポーツをするために必要なのではなく、生涯にわたり豊かに健康に生きるために必要な要素である。では、幼少期に体力や運動能力が低下すると、認知にいかなる影響が及ぶのだろうか？会場の皆様とともに、子どもたちの“からだ”と“こころ”の不可分性について再考する機会をいただいた。

コロナ禍で喪失した身体活動を取り戻す

津田龍佑（金沢医科大学）

コロナ禍において子どもの体力・運動能力低下に拍車がかかったことが報告されている。また、運動する子としない子、体力・運動能力の二極化が問題となっている。最近では、子どもの体力・運動能力低下の問題はすでに幼児期から始まっていることが指摘されている。

運動やスポーツに継続的に取り組むことは、体力の向上や生活習慣病の予防の観点からも大きな意義がある。子どもの体力向上は、園や学校だけでなく地域・家庭が連携して取り組む課題である。それでは、運動を楽しみながらどのように体力・運動能力向上を図ると良いのだろうか。本シンポジウムでは、このような問題を解決するために取り組んだ石川県下の保育園での運動遊びおよび小学校の体育授業実践の成果と課題について紹介した。

小川耕平（富山福祉短期大学）

略歴：富山大学大学院教科教育専攻保健体育専修修了。修士（教育学）。

富山県健康づくり財団を経て、富山福祉短期大学幼児教育学科教授（学科長）。専門は、幼児体育、トレーニング・コンディショニング。NPO 法人笑顔スポーツ学園の理事長も務めており、保育園、学童保育、スポーツクラブの運営も行いながら子ども達の健康・体力の向上に関する研究と実践も行っている。

村山孝之（金沢大学）

略歴：広島大学大学院生物圏科学研究科修了。博士（学術）。

金沢大学保健管理センター講師・准教授、エクセター大学客員研究員（英国）を経て、現在、金沢大学国際基幹教育院・准教授。専門は運動心理学、認知科学。近年は、とりわけ運動学習における知覚-運動系のメカニズムや、プレッシャーと運動パフォーマンスの関係性に着目した研究、ならびにアスリートの医科学支援（心理サポート）を行っている。

津田龍佑（金沢医科大学）

略歴：筑波大学大学院人間総合科学研究科修了。博士（体育科学）。

筑波大学体育センター准研究員を経て、金沢医科大学一般教育機構・講師、現在、金沢医科大学一般教育機構・准教授。専門は体力学、運動生理学。近年は幼少期の子どもの体力・運動能力低下の問題に関する研究に従事している。

